

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2026.6.15-21

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（1～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

➤ 15日 月曜

コリント I



15:29 そうでなかったら、死者のためにバプテスマを受ける人たちは、何をしようとしているのですか。死者が決してよみがえらないのなら、その人たちは、なぜ死者のためにバプテスマを受けるのですか。

15:30 なぜ私たちも、絶えず危険にさらされているのでしょうか。

15:31 兄弟たち。私たちの主キリスト・イエスにあって私が抱いている、あなたがたについての誇りにかけて言いますが、私は日々死んでいるのです。

15:32 もし私が人間の考えからエペソで獣と戦ったのなら、何の得があったでしょう。もし死者がよみがえらないのなら、「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ、明日は死ぬのだから」ということになります。

15:33 惑わされてはいけません。「悪い交際は良い習慣を損なう」のです。

15:34 目を覚まして正しい生活を送り、罪を犯さないようにしなさい。神について無知な人たちがいます。私はあなたがたを恥じ入らせるために言っているのです。

干からびて死んだと思われていた種が多数あって、試しに土に蒔いたところ、一つが発芽し始めたします。私たちは「他の種も生きている」と確信することでしょう。イエス様の復活は「私たちも…」と確信させるものです。

またある工場の生産ラインで造られた同じタイプの自動車に欠陥があった場合、「他の車にも欠陥がある」と考えざるを得ません。アダムの罪は「私たちにも…」と確信させるものです。

アダムの罪による人間の死…。しかしキリストによる、死からの勝利…。死と勝利は相容れない概念であり、矛盾する事実です。しかし聖書には「死は勝利にのまれた」と宣言されています。その確証と

してイエス様がよみがえったという事実があるのです。

それだけでなく、天地を造られた主は、「あらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国」と御手に治めると明言されています。

ですから私たちは、十字架の「死者」であるイエス様のゆえにバプテスマを受けるのです。

(「死者のゆえに」の解釈は、天国に行った信仰者のために、死に至る重篤な人のために…など複数あります。) そしてこのイエス様と一つとされたのですから、「明日は死ぬのだから」というような刹那的で無目的な生き方はしないのです。

ですからお互いに、「神について無知」ではなく正しい知識を持っている者として、互いの信仰を整えて励ますような「交際」をしましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(気持や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 16日 火曜

コリント I



15:35 しかし、「死者はどのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか」と言う人がいるでしょう。

15:36 愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ生かされません。

15:37 また、あなたが蒔くものは、後にできるからだではなく、麦であれ、そのほかの穀物であれ、ただの種粒です。

15:38 しかし神は、みこころのままに、それいからだを与え、それぞれの種にそれ自身のからだをお与えにします。

15:39 どんな肉も同じではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉、それぞれ違います。

15:40 また、天上のからだもあり、地上のからだもあり、天上のからだの輝きと地上のからだの輝きは異なり、

15:41 太陽の輝き、月の輝き、星の輝き、それぞれ違います。星と星の間でも輝きが違います。

15:42 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえられ、

15:43 卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえられ、弱いもので蒔かれ、力あるものによみがえられ、

15:44 血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。

15:45 こう書かれています。「最初の人アダムは生きるものとなった。」しかし、最後のアダムはいのちを与える御霊となりました。

15:46 最初にあったのは、御霊のものではな

く血肉のものです。御霊のものは後に来るのです。

15:47 第一の人は地から出て、土で造られた人ですが、第二の人は天から出た方です。

15:48 土で造られた者たちはみな、この土で造られた人に似ており、天に属する者たちはみな、この天に属する方に似ています。

15:49 私たちは、土で造られた人のかたちを持っていたように、天に属する方のかたちも持つことになるのです。

コリントはギリシャの一都市でした。ギリシャ的な考えでは肉体は悪であるという理解で、死者がよみがえるなどというのは無意味だったのです。つまり当時の人々は、よみがえりといっても、ゾンビが起き上がってくるように死体のままで動き出すイメージでしかなかったのです。それで”そんなことは不可能だ。何の意味があるのか。”という議論に対して、パウロは答えました。

パウロが言うのはよみがえりの不連続性と連続性です。麦などの種は蒔かれると、その種自体は地中で死んだように朽ちていきますが、その過程を通して、新しい個体がつくられます。朽ちたという意味では不連続ですが、しかし新しい個体も以前の命を受け継いでいますから、命が連続しているのです。

つまり神がなされるよみがえりは、同じ命の連続でありながら、しかし肉体は別個のものであるということです。よみがえりのからだは天上のからだであって、地上のからだとは違うということです。天上のからだは「朽ちない」ものです。私たちは人智をはるかに超えたすばらしい希望に生きているのです。

「私たちは土で造られた者のかたちを持っていたように、天上のかたちをも持つのです。」とありますから、私たちはすでに種の胚芽のように、次の天上のからだを持っているのですから、それ

を自覚し感謝して、そのように希望と意義を持って歩みましょう

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 17日 水曜

コリント I

15:50 兄弟たち、私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。

15:51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。

15:52 終わりのラツパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラツパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

15:53 この朽ちるべきものが、朽ちないものを必ず着ることになり、この死ぬべきものが、死なないものを必ず着ることになるからです。

15:54 そして、この朽ちるべきものが朽ちないものを着て、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、このように記されたみことばが実現します。「死は勝利に?み込まれた。」

15:55 「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」

15:56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。

15:57 しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。

15:58 ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主において無駄でないことを知っているのですから。



天の出来事を直接見聞できませんし、地上生涯以降のことも直接見聞することはできません。ですから死とその後のことが何が霞に隠れた遠いことのように感じやすいのです。しかし死とその後のことは非常に身近なことであり、もちろん現実のことであり、すぐにでも起きることです。

そして死とその後のことは、地上生涯のおまけのようなオプションではなく、それがメインであり本質的なことなのです。地上生涯はおそらく100年にも満たないものですが、その後の時間は永遠に続くのです。神との関係で永遠が決定し、その神は永遠だからです。

そこで重要なのが神の国に入る、すなわち「神の国を相続する」ということです。永遠を相続するのですから、当然永遠に続くものが相続できるのですが、肉体の命は永遠ではありませんから不可能です。「不死を着なければならぬ」のです。もちろんそれは十字架の赦しによる、永遠の命です。

「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。…」というのは、ホセア書からの引用ですが、そこではさばきのために死が呼び起こされています。にもかかわらず神様はそのさばきを逆転して、赦しと永遠の命の勝利を与えてくださったということです。何という恵でしょうか。

「死のとげは…」とありますが、確かに死が恐ろしいのは罪ゆえのさばきがあるからです。また罪が恐ろしいのは律法ゆえのさばきがあるからです。私たちは死が恐ろしいものです。しかし勝利が与えられているのです。感謝しましょう。

このような恵の主が最終的な勝利者・支配者であります。そして私たちに必要で意味のある苦勞を与えてくださるのですから、「すべてはむだでない」と確信でき、前進できるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 18日 木曜

コリント I

16:1 さて、聖徒たちのための献金については、ガラテヤの諸教会に命じたとおりに、あなたがたも行いなさい。

16:2 私がそちらに行ってから献金を集めることがないように、あなたがたはそれぞれ、いつも週の初めの日に、収入に応じて、いくらかでも手もとに蓄えておきなさい。

16:3 私がそちらに着いたら、あなたがたの承認を得た人たちに手紙を持たせてエルサレムに派遣し、あなたがたの贈り物を届けさせましょう。

16:4 もし私も行くほうがよければ、その人たちは私と一緒にいくことになるでしょう。

16:5 私はマケドニアを通して、あなたがたのところへ行きます。マケドニアはただ通過し、

16:6 おそらく、あなたがたのところ滞在するでしょう。冬を越すことになるかもしれませんが、どこに向かうにしても、あなたがたに送り出してもらうためです。

16:7 私は今、旅のついでにあなたがたに会うようなことはしたくありません。主がお許しになるなら、あなたがたのところにしばらく滞在したいと願っています。

16:8 しかし、五旬節まではエペソに滞在します。

16:9 実り多い働きをもたらす門が私のために広く開かれています。反対者も大勢いるからです。

16:10 テモテがそちらに行ったら、あなたがたのところで心配なく過ごせるようにしてあげてください。彼も私と同じように、主のみわざに励んでいるのです。

16:11 だれも彼を軽んじてはいけません。彼



を平安のうちに送り出して、私のところに來させてください。私は、彼が兄弟たちと一緒に戻るのを待っています。

16:12 兄弟アポロのことですが、兄弟たちと一緒にあなたがたのところに行くように、私は強く勧めました。けれども、彼は今のところ行く意志は全くありません。しかし、良い機会があれば行くでしょう。

教会にとって、クリスチャンにとって献金は重要なものです。パウロが「靈的恵み」と言うように、靈的信仰の表れだからです。

コリントの教会は問題がありましたし、かつてはパウロも彼らからは何も受け取らない方が良くさえ考えていたようです。しかしパウロはささげる者への祝福を知っていたので、彼らにも献金を勧めます。またそのあり方を命じています。

第一に、献金は備えておくべきです。心に決めて、その通りに「たくわえて」用意するのです。それは信仰の表れとなるからです。

第二に、献金は定期的になすべきです。「いつも週の初めの日に…たくわえて」とあります。月々の場合も多いでしょうが、定期的であることによって教会の働きは計画的で見通しの立ったものとなれるのです。

第三に、献金は主から預けられた分を果たすべきです。多く与えられた者はそれだけ主からの預かりものが多いのですから、主に返しすべきです。(十分の一は主のものともマラキ書にあるように)

第四に以上のまとめとして、献金はへりくだってすべきです。「自分がくれてやるのだから自分の都合でいいだろう」とは考えずに、主のみわざ・主のからだのために最善と思われることを、仕える者の姿勢でささげることです。

また教会にとって宣教の計画は大切です。パウロは「マケドニアを通して」「エペソに滞在します。」というように、具体的な計画を持ってい

ました。それも「門が私のために広く開かれて…」というように、現実にも即したものです。

ただし一方では「主がお許しになるなら…」と、主を第一として従うことが大前提になっています。教会のミニストリー・計画も同様です。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(気持や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



16:13 目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。雄々しく、強くありなさい。
 16:14 一切のことを、愛をもって行いなさい。
 16:15 兄弟たちよ、あなたがたに勧めます。ご存じのとおり、ステファナの一家はアカイアの初穂であり、聖徒たちのために熱心に奉仕してくれました。
 16:16 あなたがたも、このような人たちに、また、ともに働き、労苦しているすべての人たちに従いなさい。
 16:17 ステファナとポルトナトとアカイコが来たので、私は喜んでます。あなたがたがない分を、彼らが埋めてくれたからです。
 16:18 彼らは、私の心とあなたがたの心を安らがせてくれました。このような人たちを尊びなさい。
 16:19 アジアの諸教会がよろしくとっています。アキラとプリスカ、また彼らの家にある教会が、主にあって心から、あなたがたによろしくとっています。
 16:20 すべての兄弟たちが、あなたがたによろしくとっています。聖なる口づけをもって互いにあいさつを交わしなさい。
 16:21 私パウロが、自分の手であいさつを記します。
 16:22 主を愛さない者はみな、のろわれよ。主よ、来てください。
 16:23 主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。
 16:24 私の愛が、キリスト・イエスにあって、あなたがたすべてとともにありますように。

コリント教会への手紙もまとめに入ってきました。これまでの勧めを短くそして本質でまとめたのが、

13 節 14 節です。

「目を覚まして」とは見えている状態です。主ご自身を、自分のたましいを、教会の霊的な状態を、背後に働かれる主のみわざとみこころを見るならば、私たちはどんな状況にも正しく勝利の道を進むことができるでしょう。

「堅く信仰に立ち」とは、自分が何を土台としているかです。自分が救われて今はどのような状態になっているのか、その救いは誰によってもたらされたのか、いったい自分は何に従って人生を歩んだら良いのか…それらを考えると主への信仰という揺るぎないものを土台とするなら、決して揺り動かされることはないのです。

「雄々しく、強く」とは、主に従うことの勇氣・確信です。分かってはいるけどなかなか従えるものではない…などというのは勇氣がないからでしょう。

そして最後に「愛をもって」とあります。教会の一致も、偶像と決別することも、信仰の弱い人への配慮も、聖餐のあり方も、賜物を生かすことも、すべて愛を動機とするとときに、必ず良い方向に向くからです。この「愛」はアガペイですから、主から受けて、主の無条件の愛で愛するものです。

パウロは「従いなさい」と勧めます。本来人は神に従うべきではないかとも思いますが、教会など人の協力関係では、現実的に人（の決定）に従うということも必要になってきます。それは「自分がお世話になったから」とか「立派なひとだから」という理由でなく、「聖徒たちのために熱心に奉仕し」、主のチームワークで「ともに働き、苦勞している」のだからという理由です。

また「尊びなさい」ともあります。主の勞ですから、それを感謝し励まし助けるのは教会の愛の交わりとして基本となることです。

最後にパウロはすべてを主の權威のもとに置き、權威に従います。同時に「のろわれよ」とも「恵が…ありますように」とも言っているのは、彼が単に個人的な人情で書いているのではなく、永遠の權威者である神こそが、コリントの人々のすべ

てであると分かっているからです。主のみこころが語られない、単なる心地よいことばは無責任なものになってしまいます。パウロは真実に教会を愛していたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（氣持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 20日 土曜

ヨナ書



1:1 アミタイの子ヨナに、次のような【主】のことがあった。
1:2 「立ってあの大きな都ニネベに行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。」
1:3 しかし、ヨナは立って、【主】の御顔を避けてタルシシュへ逃れようとした。彼はヤッフアに下り、タルシシュ行きの船を見つけると、船賃を払ってそれに乗り込み、【主】の御顔を避けて、人々と一緒にタルシシュへ行こうとした。
1:4 ところが、【主】が大風を海に吹きつけられたので、激しい暴風が海に起こった。それで船は難破しそうになった。
1:5 水夫たちは恐れて、それぞれ自分の神に向かって叫んだ。そして、船を軽くしようと船の積荷を海に投げ捨てた。一方、ヨナは船底に下りていて、横になってぐっすり寝入っていた。
1:6 すると船長が近づいて来て、彼に言った。「いったいどうしたのか。眠りこけているとは。起きて、あなたの神に願いなさい。もしかすると、その神が私たちに心を留め、私たちは滅びないですむかもしれません。」
1:7 人々は互いに言った。「さあ、だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったのか、くじによって知ろう。」彼らがかじを引くと、そのくじはヨナに当たった。
1:8 そこで彼らはヨナに言った。「話してくれ。だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったのか。あなたの仕事は何か。どこから来たのか。国はどこか。どの民の者か。」

1:9 ヨナは彼らに言った。「私はヘブル人です。私は、海と陸を造られた天の神、

【主】を恐れる者です。」

1:10 人々は非常に恐れて、彼に「何ということをしたのか」と言った。人々は、ヨナが彼らに告げたことによって、彼が【主】の御顔を避けて逃れようとしていることを知ったからである。

ニネベは異教の地で、彼らに預言を語るのをヨナは躊躇したのかもしれませんが。または全く個人的な理由で、主にそこまで従う気にはなれないと思ったのかも知れません。何かの理由で彼は従わなかったのですが、そのようなときは「主の顔を避け」るようになってしまいます。

それでも主はみこころを成し遂げるお方ですから、暴風によって、ヨナに従いを迫ります。主の御計画から誰も離れることはできません。しかしそれは祝福への道なのです。

すぐに主に従うことは大切です、それこそが大いなる祝福であり人生の勝利ですが、もしも従わなかったときは、早くに主へ方向転換しましょう。もしも逃げ場がなくなってしまったようなことがあったとしても、それでも主のご計画への満ちはあるのだと知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 21日 日曜

ヨナ書



1:11 彼らはヨナに言った。「私たちのために海が静まるようにするには、あなたをどうすればよいのか。」海がますます荒れてきたからである。

1:12 ヨナは彼らに言った。「私を抱え上げて、海に投げ込みなさい。そうすれば、海はあなたがたのために静かになるでしょう。私は分かっています。この激しい暴風は、私のせいであなただがたを襲ったのです。」

1:13 それでも人々は船を陸に戻そうと漕いだが、そうすることはできなかった。海がますます彼らに向かって荒れてきたからである。

1:14 そこで彼らは【主】に向かって叫んだ。「ああ、【主】よ。どうか、この男のいのちのことで、私たちが滅びることのないようにしてください。咎なき者の血の報いを、私たちの上に下さないでください。【主】よ。あなたは、望まれたとおりになされたのですから。」

1:15 こうして、彼らはヨナを抱え上げ、海に投げ込んだ。すると激しい怒りがやんで、海は凪になった。

1:16 人々は非常に【主】を恐れ、【主】にいけにえを献げて誓願を立てた。

1:17 【主】は大きな魚を備えて、ヨナを?み込ませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。

ヨナは主から離れたことによって、自分の人生に希望がなくなり、自暴自棄のようになって、海に投げ込まれることをよしとしてしまいました。それは救われる前の人間の姿でもあります。

「三日三晩、魚の中にいた」とはまさに死を意味しますが、同時に主イエスの死と復活もそこに暗示されています。主が死に打ち勝って三日後によみが

えってくださったからです。

自暴自棄の解決もまた主の十字架と復活にあるのです。十字架の愛の力を帯びながら祈りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

